

特集タイトル 「国際関係への文化的アプローチ」(仮)

編集責任者：川村陶子

本特集では、国際関係を文化の視点から分析、考察する論文を幅広く募集する。大きく以下の2つのアプローチのいずれかないし両方に基づく研究成果を期待したい。いずれのアプローチにおいても、文化の生成や変化、接触・伝播・受容・拒絶、内的多様性、さまざまな次元の「文化」の相互連関などに留意した、ダイナミックな文化理解にもとづく論文を歓迎する。

- ① 国際関係の行為主体を規定する文化的要因や、文化的背景を異にする行為主体間の関係に注目するもの(分析的アプローチ)
- ② 文化を資源、手段ないし媒介とした国際的行為主体間の関係の展開や、そのような関係の自覚的運営に注目するもの(管理的アプローチ)

過去に刊行された『国際政治』の特集でタイトルに「文化」を含むものは「国際政治と文化研究」(第129号、2002年)、「安全保障・戦略文化の比較研究」(第167号、2012年)の2つである。いずれの特集も文化概念の複雑性や文化的アプローチの多面性に留意して編集され、前者は①と②の双方、後者は①のアプローチに基づく論考を所収している。前者の所収論文には、文化を鍵概念として国際関係研究の方法を整理し考察する試みに加えて、民族や日常性のような〈ひと〉の次元における国際関係の検討もみられた。本特集も、〈ひと〉やその集団の多様な営みが国際関係に及ぼすインパクトに関する分析・考察を「広い意味での文化を扱う研究」と位置づけ、①②の両面からその試みを募るものである。論文中で文化概念を用いる場合、当該概念は執筆者なりの定義にもとづき、内容が一貫していることが望ましい。

今日の世界では、①分析的アプローチ、②管理的アプローチの双方において、国際関係を文化の視点で論じる機運が熟している。それぞれのアプローチに関連すると考えられる現実の情勢や研究の動向を以下にまとめる。本特集号への寄稿論文のテーマや問題意識の一例として参考されたい。

分析的アプローチ(①)に関しては、新興国の台頭、移民・難民の増加、「文化的共通性」を基盤においた勢力拡張の試み、社会運動の越境的展開など、国内・国際社会における多様性をもたらす対立や分断、共通の特性や価値にもとづくつながりによって、国際関係が動かされる現象が目撃される。外交においては、自由民主主義や「ルールに基づく国際秩序」とは異なる価値観やナラティブを有する行為主体が存在感を強めている。このようななか、アカ

デミアでも、安全保障や国際秩序を多様性管理や共通価値実現の観点から論じる場面が目立つようになった。今後は、国際関係における本質主義的な他者認識の問題性や、「われわれ」対「かれら」の二項対立的世界観がもたらすリスクなどについても、より深い検討が求められるところである。

管理的アプローチ (②) に関しては、文化を〈くに〉のパワー資源と位置づけるソフト・パワー論が幅広い関心を集め、文化外交やパブリック・ディプロマシー、国家ブランディング、世界遺産やそれに類する「認証」制度など、文化を活用した国益追求や関係構築を主眼とする政策や活動、制度が展開し整備されている。その一方で、技術が発達し〈ひと〉やモノ・情報の越境移動が活発化する今日では、政府の管理を離れた場やその意向と異なるかたちで文化が〈ひと〉を動かす現象にも注意を払うことが大切だろう。文化を資源、手段、媒介とする国際関係は、冷戦史をはじめとする外交史や国際関係史の分野でしばしばテーマ化され、研究が蓄積されている。近年では歴史研究に加えて文化資源や文化政策などの領域における研究の成果も目を見張るものがある。文化財の保有・返還・破壊、文化の所有や「盗用」といった行為を、植民地支配や人種差別、ジェノサイド、経済的収奪などの〈くに〉をこえた権力関係の文脈で考察することも多くなってきた。いずれのテーマについても、文化の生成、流通、保有、享受のプロセスに着目し、各段階で関与する多様な主体のポリティクスを分析・考察することが重要である。

以上のような状況をふまえつつ、本特集号を、①②のいずれかないし両方のアプローチに基づいて国際関係と文化を論じた研究を総覧する機会としたい。具体的なテーマや問題意識は、上に挙げた以外にもさまざまなのが考えられる。理論的考察、実証研究のいずれも歓迎である。意欲的な投稿を期待する。

投稿を希望する会員は、論文の仮タイトルと要旨を 600～800 字程度でまとめ、自宅および勤務先の住所・電話番号・メールアドレスを明記して、下記の編集責任者に電子メールで送ってください。締め切りは 2023 年 10 月 31 日の予定です。本号特集の構成などを総合的に勘案し、執筆をお願いする方には 2023 年 11 月 30 までに編集責任者から連絡いたします。原稿の最終締め切りは 2024 年 10 月 31 日の予定で、分量は執筆要領に定める計算方法で 2 万字以内です。原稿は複数名の査読者による査読の対象となり、最終的な掲載の可否は査読後に決定します。本号の刊行予定は 2025 年 6 月です。

執筆要領は、以下の学会ウェブサイトをご覧ください。

<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ、お申し込みは、編集責任者に電子メールでお願いします。

<編集責任者> 川村陶子 (成蹊大学)

<連絡先> 〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1 成蹊大学文学部

TEL: 0422-37-3557 (研究棟代表電話)

e-mail: kawamura★fh.seikei.ac.jp (★を@に置き換えてください)